



Title	浦西和彦教授略年譜
Author(s)	
Citation	國文學, 96: 1-7
Issue Date	2012-03-01
URL	http://hdl.handle.net/10112/9180
Rights	
Type	Others
Textversion	publisher

浦西和彦教授略年譜

一九四一年（昭和十六年）辛巳

九月八日、大阪市東成区東小橋北之町三丁目十番地で生まれる。

父浦西正夫・母てる子の長男。父は紳士服仕立て職人。

一九四五年（昭和二十年）

三月十三日、大阪大空襲で自宅が焼失。父が兵隊に召集されて

おり、石川県羽咋郡河合村大字下河合七十二番地の母方の祖

父母の家に疎開する。そこで敗戦を迎える。敗戦後、一家は

大阪市東成区北中道町一丁目八十二番地に移住。父は職人を

三々四名かかえ、そこう百貨店専属のオーダー紳士服の裁縫

の仕事をする。

一九五六年（昭和三十一年）

四月一日、関西大学第一高等学校に入学。同窓にフィギュアス

ケート世界殿堂入りをした佐藤信夫、巨人軍で投手として活

躍した村瀬広基らが出た。また、二年上には、小型ヨット「マ

ーメイド号」で太平洋単独横断航海した堀江謙一が出た。

一九五七年（昭和三十二年）

十一月十一日、母が心臓を患い、大阪市東区法円坂町一番二番

合併地の病院で死去。

一九六〇年（昭和三十五年）

三月三十一日、関西大学第一高等学校を卒業。

四月一日、関西大学文学部国文学科に入学。三年次の時から、

四年次生配当の谷沢永一先生の授業を聴講し、魅了される。

一九六四年（昭和三十九年）

三月、関西大学文学部国文学科を卒業。卒業論文は「源氏物語

を取り上げた。

四月一日、岐阜県立坂下女子高等学校教諭に就任。文藝部、新

聞部、卓球部の顧問をする。坂下町の弥坂橋を越えると長野

県の山口村である。山口村で葉山嘉樹が晩年を過ごした。当

時、菊枝夫人が住んでいらしやうた。坂下女子高校には葉山嘉樹と親交があつた歯科医の松井恭平さんが非常勤教師をしてゐた。葉山嘉樹の作品に出合ふ。

一九六六年（昭和四十一年）

十月十八日、坂女子高校文藝部機関誌「友樹」第三十八号で「葉山嘉樹特集号」を刊行。中野重治、小田切秀雄、佐多稲子、平林たい子、久保田正文、寺田透、平野謙らがアンケートに回答を寄せたこともあつて、広く反響を呼ぶ。

一九六八年（昭和四十三年）

三月二十日、葉山嘉樹の遺品中から小林多喜二、島木健作の未発表書簡を発見し、関西大学「国文学」第四十三号に発表。

一九六九年（昭和四十四年）

二月二十五日、「友樹」第四十三号で「森田草平特集号」を出す。

四月一日、岐阜県立大垣南高等学校に転任。新聞部の顧問をする。中央公論社より「日本の文学第三十九巻」の葉山嘉樹の年譜原稿の依頼を受ける。

一九七〇年（昭和四十五年）

四月一日、関西大学非常勤教師として夜間部の近代文学を担当する。

一九七一年（昭和四十六年）

四月一日、関西大学文学部専任講師に就任。

一九七三年（昭和四十八年）

六月十五日、「葉山嘉樹」〈近代文学資料6〉を桜楓社より刊行。

一九七四年（昭和四十九年）

四月一日、関西大学文学部助教授に就任。夏休みにゼミ生と秋田市に伊藤永之介の調査に出かける。秋田市八橋にある全良寺の官修墓地に伊藤永之介の墓にお参りした折、葉山嘉樹の祖父平右衛門（小倉藩東征後援出兵で秋田で戦死）の墓を見する。

十一月七日、第三回市民大学教養講座（日本文学の部）で「宮本百合子の文学——「伸子」を中心に——」を千里市民センター

で講演。

一九七五年（昭和五十年）

三月一日、中野重治、寺田透との鼎談「葉山嘉樹、昭和の文学」を「群像」に発表。

四月二十五日、「葉山嘉樹全集」全六巻が筑摩書房から刊行され、金子洋文、中野重治、寺田透、小田切秀雄と編集委員になる。

十月二十五日、第十四回吹田市民大学教養講座（日本文学にお

けるさまざまの出逢い」で「坪内逍遙と二葉亭四迷」を千里市民センターで講演。

一九七六年（昭和五十一年）

十二月四日、朝日アートセミナー（近代文学ゼミ）で「小林多

喜二」を京都朝日会館八階で講演。

一九八一年（昭和五十六年）

四月一日、関西大学文学部教授に就任。

一九八二年（昭和五十七年）

五月十日、「徳永直」（人物書誌大系Ⅰ）を日外アソシエーツより刊行。

一九八五年（昭和六十年）

四月一日、大阪電気通信大学非常勤講師になり、平成四年三月

まで勤める。

五月十五日、「日本プロレタリア文学研究」を桜楓社より刊行。

一九八六年（昭和六十一年）

三月十日、「日本プロレタリア文学書目」を日外アソシエーツより刊行。

三月二十七日、関西大学より文学博士の学位を授与される。

七月十日、「谷沢永二」（人物書誌大系13）を日外アソシエーツより刊行。

八月九日、第十七回書誌研究会（私立大学図書館協会書誌作成分科会）で「文献調査と書誌作成」を江東区文化センター三階第五研究室で講演。

一九八七年（昭和六十二年）

一月十日、「葉山嘉樹」（人物書誌大系16）を日外アソシエーツより刊行。

四月一日、羽衣女子短期大学非常勤教師になり、平成十一年三年まで勤める。

一九八九年（平成元年）

六月二十日、浅田隆・太田登と共編「奈良近代文学事典」を和泉書院より刊行。

六月二十二日、児島千波と共編「武田麟太郎」（人物書誌21）を日外アソシエーツより刊行。

一九九〇年（平成二年）

四月一日、関西大学情報処理センター委員会委員となる。翌年

九月三十日まで務める。

十月一日、関西大学文学部学生相談主事、大学院委員会委員を

翌年九月三十日まで務める。

十月十日、「開高健書誌」（近代文学書誌Ⅰ）を和泉書院より刊

行。

一九九一年（平成三年）

九月二十八日、日本近代文学会九月例会「実証の現代―書誌・

注釈・伝記について―」で「もつと書誌を―」を国学院大学

常磐松二号館中講堂で発表。

十月一日、関西大学図書館長に就任。平成九年三十一日まで三

期務める。

一九九二年（平成四年）

一月二十日、「葉山嘉樹―考証と資料―」（国文学研究叢書）を

明治書院より刊行。

七月二十日、図書館長として「関西大学図書館影印叢書」全十

巻の刊行を開始する。

九月二十二日～二十七日、図書館長として「おおさか文藝書画

展」を大丸心齋橋店南館七階会場で開催、入場者八千五百人。

十月二十二日～二十三日、図書館長として「関西大学文藝書画

展」を奈良市春日野町の県新公会堂で開催。

一九九三年（平成五年）

九月、劇作家北條秀司の博士（文学）の学位授与に努力する。

一九九五年（平成七年）

三月二十日、「昭和文学年表第1巻 大正15年～昭和10年」を明

治書院より刊行。

五月二十日、「昭和文学年表第2巻 昭和11年～昭和20年」を明

治書院より刊行。

十一月三十日、「田辺聖子書誌」（近代文学書誌大系3）を和泉

書院より刊行。

一九九六年（平成八年）

三月三十一日、関西大学図書館機関誌「図書館フォーラム」を

創刊。

四月二十日、「昭和文学年表第5巻 昭和41年～昭和50年」を明

治書院より刊行。

九月二十日、「昭和文学年表第6巻 昭和51年～昭和63年」を明

治書院より刊行。

一九九七年（平成九年）

五月三十日～六月十一日、図書館長として「関西大学図書館所

蔵大坂の書と画と本展」を守口市の京阪百貨店で開催。

一九九九年（平成十一年）

四月二十四日、日本近代文学書誌学協会第七回大会「パネル

「書誌」について考える」が国学院大学本館第一会議室二階で

開催され、鈴木貞美、高野彰、山下浩（司会）と発言者となる。

二〇〇二年（平成十四年）

四月一日、日本近代文学会評議員に就任（平成二十一年度ま

で)。

十一月十六日、昭和文学会秋季大会が仏教大学常照館(図書館)

五階常照ホールで開催され、「大阪の文学をめぐって」を研究発表。

十二月二十日、半田美永と共編「紀伊半島近代文学事典―和歌山・三重―」を和泉書院より刊行。

二〇〇三年(平成十五年)

三月三十一日、「河野多恵子文藝事典・書誌」(和泉事典シリーズ)を和泉書院より刊行。同書は五月十四日に社団法人日本

図書館協会選定図書に選ばれる。

五月十六日、ネットミュージアム兵庫文学館監修者になる。

二〇〇四年(平成十六年)

二月二十日、神戸学院大学人間文化科学研究科の高橋博美「田山花袋研究序説」課程博士学位審査員となる。

五月十三日、ネットミュージアム兵庫文学館「阪神淡路大震災と文学」の監修者となる。

七月七日、日本近代文学館図書館資料委員会の委員になる。

二〇〇五年(平成十七年)

五月二十日、日本近代文学会関西支部編「大阪近代文学事典」を和泉書院より刊行。編集委員長を務める。

六月一日、ネットミュージアム兵庫文学館「神戸大空襲と文学」

協力者となる。

二〇〇六年(平成十八年)

八月三十一日、「大阪近代文学作品事典」を和泉書院より刊行。

十二月十五日、堀部功夫・増田周子と共編「四国近代文学事典」を和泉書院より刊行。平成十八、十九年度「大阪で出版された雑誌文化研究―雑誌記事細目と解題―」で科学研究費補助金を受ける。

二〇〇七年(平成十九年)

一月一日、独立行政法人日本学術振興会より科学研究費委員会専門委員を委嘱される。

二月八日、平成十九年度科学研究費委員会成果公開部会人文科学系小委員会が独立行政法人日本学術振興会で開催され出席。

五月十二日、愛媛大学人文学会で「近代文学の成立と四国」を講演。

十二月八日、別府大学創立百周年記念公開講演会で「織田作之助」を講演。

二〇〇八年(平成二十年)

一月一日、独立行政法人日本学術振興会より科学研究費委員会

専門委員を委嘱される。

二月一日、平成二十年度科学研究費委員会成果公開部会人文科学系小委員会が独立行政法人日本学術振興会で開催され出席。

三月、「大阪で出版された雑誌文化研究」(科学研究費補助金成果報告書)を出す。

十月二十日、「浦西和彦著述と書誌第三巻 年譜葉山嘉樹伝」を和泉書院から刊行。

二〇〇九年(平成二十一年)

一月十日、「浦西和彦著述と書誌第四巻 増補日本プロレタリア文学書目」を和泉書院より刊行。

一月三十日、「浦西和彦著述と書誌第一巻 新・日本プロレタリア文学の研究」を和泉書院より刊行。

二月二十日、「浦西和彦著述と書誌第二巻 現代文学研究の基底」を和泉書院より刊行。

三月二十四日、多喜二・百合子研究会主催「連続講座いま、なぜプロレタリア文学か」が東京労働会館地下会議室で開催され、「獄中で描かれた代表作―葉山嘉樹『海に生くる人々』」を講演。

三月三十一日、関西大学「職員任免規則第十五条第一号」によ

り定年退職。

四月一日、関西大学名誉教授の称号が授与された。関西大学特別契約教授に就任。平成二十四年三月三十一日まで勤める。

四月二十七日、「浦西和彦著述と書誌」出版祝賀会が新阪急ホテルで開催された。谷沢永一・河田悌一・玉井敬之・浅田隆・浅野洋・木村一信・山本幾生・広橋研三の祝辞、片桐洋一の乾杯。

五月三十日、平成二十一年度国際熊野学会大会が新宮市福祉センターで開催され、基調講演「沖野岩三郎『宿命』について」をする。

二〇一〇年(平成二十二年)

七月十八日、立命館大学の島木圭太氏の学位論文「リアリズムと身体―プロレタリア文学運動におけるイデオロギーの動態について―」の公開審査が末川記念会館で開かれ、審査委員になる。

八月一日、独立行政法人日本学術振興会より特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員に委嘱される。平成二十三年七月三十一日まで。

九月八日、韓国全南大学日本文化研究所で「日本近代文学の成立とその特異性」を講演。

九月十日、韓国外国語大学日本研究所で「日本近代文学の成立とその特異性」を講演。シンポジウムに参加。

十月四日、岐阜県得那地区高等学校国語教育研究会が恵那高校同窓会館花の木会館で開催され、「葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」をめぐる」を講演。

二〇一二年（平成二十三年）

三月十三日～十九日、韓国全南大学大学院で集中講義をする。

三月十六日、韓国全南大学で「書誌による近代文学研究方法」について講演。

五月二十一日、谷沢永一名誉教授を偲ぶ会が関西大学千里ホールで挙行され、冊子「谷沢永一博士 略年譜・書目」（百十七頁）を作成。

六月二十一日、立命館大学の池田啓悟の学位論文「プロレタリア文学運動の組織論と創作法―中條／宮本百合子を中心とした一九三〇年代プロレタリア文学の実践―」の公開審査が啓明館で開かれ、審査委員になる。

七月八日、平成二十三年度ネットミュージアム兵庫文学館コンテンツ監修者となる。

八月三十一日、八尾市立教育委員会より吉田文庫整理委員長を委嘱される。

九月二十三日、第一回関西大学・韓国慶尚大学学術シンポジウム「近代転換期の東アジアの文学・文化への再認識・横断と接境」の基調講演「プロレタリア文学運動圏外作家・中西伊之助「緒土に芽ぐむもの」について」を韓国慶尚大学でする。

二〇一二年（平成二十四年）

一月二十一日、最終講義「葉山嘉樹の文学的転向」を関西大学文学部第一学舎第一号館A六〇二教室で行う。